



2020 年度 中間連結決算

新型コロナウイルスの影響により、大幅な減収・減益

関西エアポート株式会社は、2020 年 4 月から 2020 年 9 月までの第 6 期会計年度中間連結決算において、営業収益は 266 億円、営業損益は 225 億円の損失、経常損益は 260 億円の損失、中間純損益*は 178 億円の損失を計上しました。

今中間期は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前年同期と比較すると、営業収益は 78%の減少となりました。人件費を含む費用の削減に取り組みましたが、固定的費用の負担が大きく、営業損益では前期比 586 億円の減益、経常損益では 568 億円の減益、中間純損益では 432 億円の減益となりました。

(連結損益計算書)

(単位：億円)

	2019.4-2019.9	2020.4-2020.9	増減	%
営業収益	1,198	266	(932)	-78%
外部費用	(635)	(284)	351	-55%
EBITDA	563	(18)	(581)	-
減価償却費	(202)	(206)	(5)	+2%
営業損益	362	(225)	(586)	-
経常損益	308	(260)	(568)	-
中間純損益*	255	(178)	(432)	-

* 「中間純損益」は、「当社株主に帰属する中間純損益」を記載しています。

(航空需要の状況)

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、旅客便を中心に減便・運休が相次いだことから、3 空港合わせた航空機発着回数は 7.6 万回、航空旅客数は 350 万人と、前年と比べそれぞれ 60%減、87%減となりました。特に、国際線につきましては、各国および日本政府の出入国制限が拡大・継続したこともあり、国際線旅客数は上半期の 6 か月間、前年の 1%に満たない大変厳しい状況が続きました。国内線につきましても、依然厳しい状況が続いておりますが、緊急事態宣言下にあった 5 月を底に、緩やかな回復傾向にあり、9 月時点で前年と比べ 3~4 割程度まで回復してきております。一方、旅客便運休による貨物スペースのひっ迫により、貨物便は増加しました。

	2019.4-2019.9	2020.4-2020.9	増減	増減率
航空機発着回数（万回）	19.1	7.6	(11.6)	-60%
関西国際空港	10.6	2.8	(7.8)	-74%
大阪国際空港	7.0	3.7	(3.3)	-47%
神戸空港	1.6	1.0	(0.5)	-34%
航空旅客数（万人）	2,644	350	(2,295)	-87%
関西国際空港	1,635	88	(1,547)	-95%
大阪国際空港	839	220	(620)	-74%
神戸空港	170	43	(128)	-75%

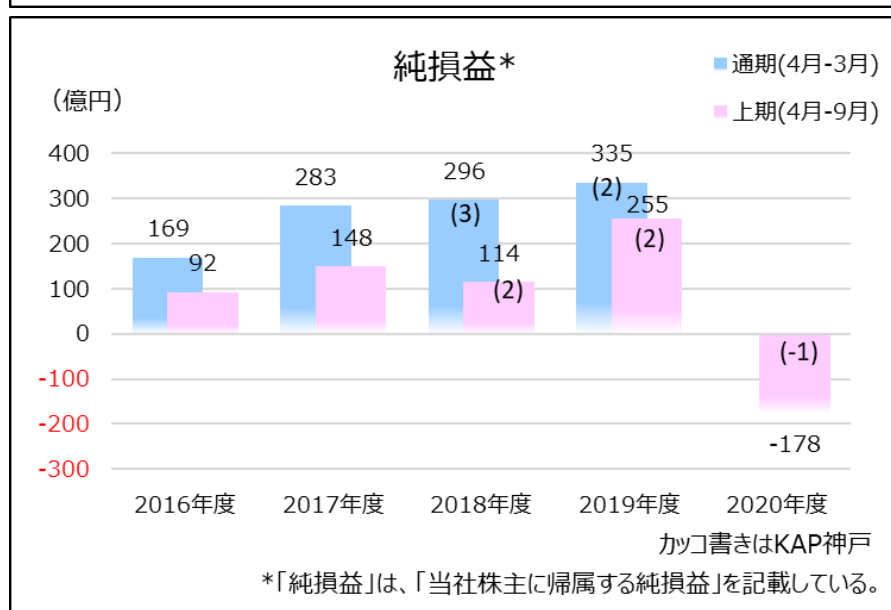
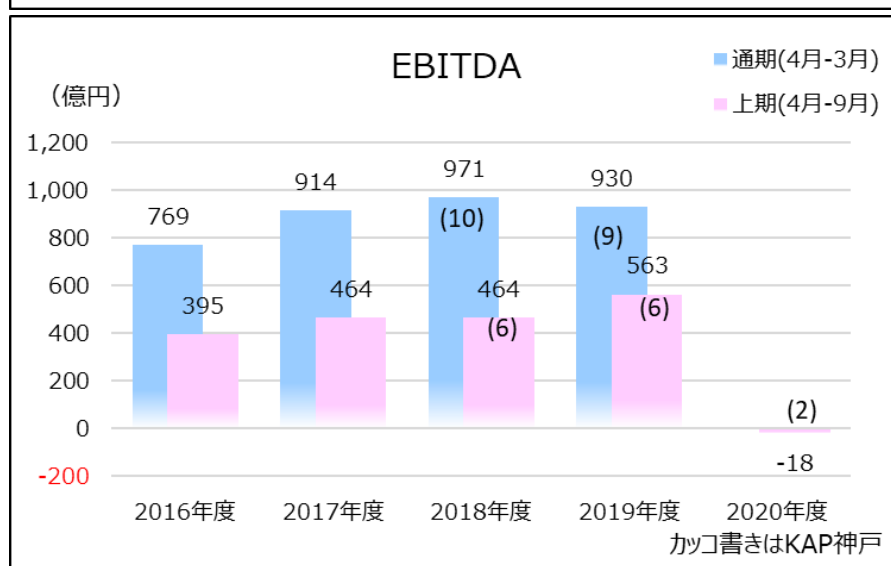
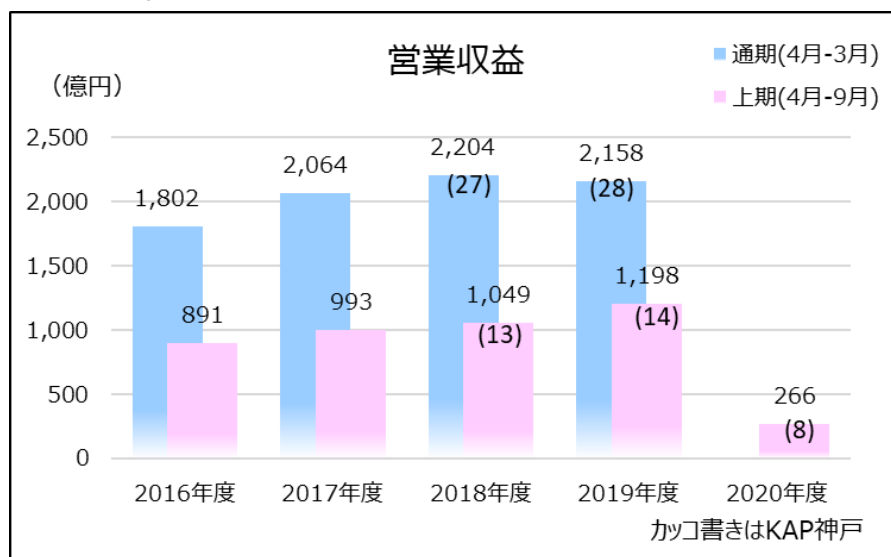
（連結貸借対照表）

2020年9月30日現在における財政状態は、前期末と比べると、現金支出の抑制に努めましたが、新型コロナウイルスの影響による営業キャッシュフローの減少により、現金及び預金が減少し、資産合計は1兆6,804億円となりました。また、未払金や公共施設等運営権の支払いなどにより、負債が減少した結果、負債合計は1兆5,887億円となりました。

（単位：億円）

	2020.3.31 現在	2020.9.30 現在	増減
流動資産	1,690	1,208	(482)
固定資産	15,635	15,597	(39)
資産合計	17,325	16,804	(521)
流動負債	799	607	(192)
固定負債	15,431	15,280	(150)
負債合計	16,230	15,887	(342)
株主資本	1,087	909	(178)
その他の包括利益累計額	(6)	(9)	(2)
非支配株主持分	15	16	1
純資産合計	1,096	917	(179)
負債・純資産合計	17,325	16,804	(521)

(参考資料) 連結決算の推移



【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
 グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
 Tel : 072-455-2201

連 結 損 益 計 算 書

〔 自 2020 年 4 月 1 日 〕
〔 至 2020 年 9 月 30 日 〕

(単位: 百万円)

営 業 収 益		26,617
営 業 原 価		42,179
売 上 総 損 失		15,562
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		6,894
営 業 損 失		22,457
営 業 外 収 益		2,472
受 取 利 息 及 び 配 当 金	297	
雇 用 調 整 助 成 金	1,973	
そ の 他 の 営 業 外 収 益	201	
営 業 外 費 用		6,060
支 払 利 息	5,931	
支 払 手 数 料	50	
持 分 法 に よ る 投 資 損 失	57	
そ の 他 の 営 業 外 費 用	21	
経 常 損 失		26,045
特 別 利 益		3,988
固 定 資 産 売 却 益	4	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	30	
補 助 金 収 入	1,651	
災 害 に 伴 う 受 取 保 険 金	2,302	
特 別 損 失		3,407
固 定 資 産 除 却 損	19	
固 定 資 産 売 却 損	2	
固 定 資 産 圧 縮 損	1,475	
更 新 投 資 に 伴 う 撤 去 費 用	1,872	
災 害 に よ る 損 失	70	
災 害 損 失 引 当 金 繰 入 額	△ 34	
支 店 閉 鎖 損 失	0	
税 金 等 調 整 前 中 間 純 損 失		25,464
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	316	
法 人 税 等 調 整 額	△ 8,126	
中 間 純 損 失		17,653
非 支 配 株 主 に 帰 属 する 中 間 純 利 益		129
親 会 社 株 主 に 帰 属 する 中 間 純 損 失		17,783

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連 結 貸 借 対 照 表

〔2020年9月30日現在〕

(単位: 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	120,767	流 動 負 債	60,703
現 金 及 び 預 金	92,324	買 掛 金	600
売 掛 金	4,907	未 払 金	8,786
商 品	5,705	未 払 費 用	3,347
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	1,189	1年内返済予定の長期借入金	3,353
1年内回収予定の差入保証金	7,804	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	29,876
未 収 金	2,083	未 払 法 人 税 等	7,712
そ の 他	6,781	賞 与 引 当 金	982
貸 倒 引 当 金	△ 29	ポ イ ン ト 引 当 金	80
		そ の 他	5,963
固 定 資 産	1,559,651	固 定 負 債	1,528,024
有 形 固 定 資 産	43,292	社 債	4,860
建 物 及 び 構 築 物	3,883	長 期 借 入 金	161,000
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	10,577	公共施設等運営権に係る負債	1,297,366
工 具 器 具 備 品	7,053	特 別 修 繕 引 当 金	47,709
土 地	603	災 害 損 失 引 当 金	1,014
建 設 仮 勘 定	21,034	退 職 給 付 に 係 る 負 債	4,988
そ の 他	140	そ の 他	11,085
無 形 固 定 資 産	1,404,824		
公 共 施 設 等 運 営 権	1,365,094		
更 新 投 資 に 係 る 資 産	38,307	負 債 合 計	1,588,727
そ の 他	1,422	純 資 産 の 部	
投 資 そ の 他 の 資 産	111,534	株 主 資 本	90,911
投 資 有 価 証 券	1,171	資 本 金	25,000
退 職 給 付 に 係 る 資 産	250	資 本 剰 余 金	25,000
差 入 保 証 金	93,895	利 益 剰 余 金	40,911
繰 延 税 金 資 産	16,040	その他の包括利益累計額	△ 864
そ の 他	473	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△ 864
貸 倒 引 当 金	△ 297	非 支 配 株 主 持 分	1,643
		純 資 産 合 計	91,690
資 産 合 計	1,680,418	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,680,418

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016 年 4 月 1 日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018 年 4 月 1 日からは関西エアポート株式会社の 100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西 3 空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地 大阪市西区西本町一丁目 4 番 1 号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港 1 番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964 年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971 年の香港進出を皮切りに世界 37 カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、45 空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するブラジル、カンボジア、チリ、コスタリカ、ドミニカ共和国、フランス、日本、ポルトガル、セルビア、スウェーデン、イギリス、そしてアメリカ合衆国の空港には、合計で 250 社以上の航空会社が就航し、2019 年の旅客者数は 2 億 5,500 万人にのぼります。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとしての専門知識を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして、空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設事業を行っています。

2019 年の連結売上高は 26 億ユーロ、グループ全体の売上高は 49 億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱 U F J 銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2020年度 中間連結決算

2020.12.10

Shaping a New Journey



アジェンダ

- 2020年度 中間連結決算の概要
- 営業収益分析
- 2020年度上期の取り組み





2020年度 中間連結決算の概要

新型コロナウイルスの影響により、大幅な減収・減益

【単位：億円】

1. 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、旅客便を中心に減便・運休が相次ぎ、発着回数・旅客数は大幅減少。特に国際線旅客数は前年の1%に満たない厳しい状況。

2. 発着回数・旅客数の減少を受け、前年同期と比べ大幅な減収。

3. 人件費を含む費用の削減に取り組むも、固定的費用の負担が大きく、大幅な減益。

	2019.4-2019.9	2020.4-2020.9	増減	%
営業収益	1,198	266	(932)	-78%
EBITDA	563	(18)	(581)	-
営業損益	362	(225)	(586)	-
経常損益	308	(260)	(568)	-
中間純損益*	255	(178)	(432)	-

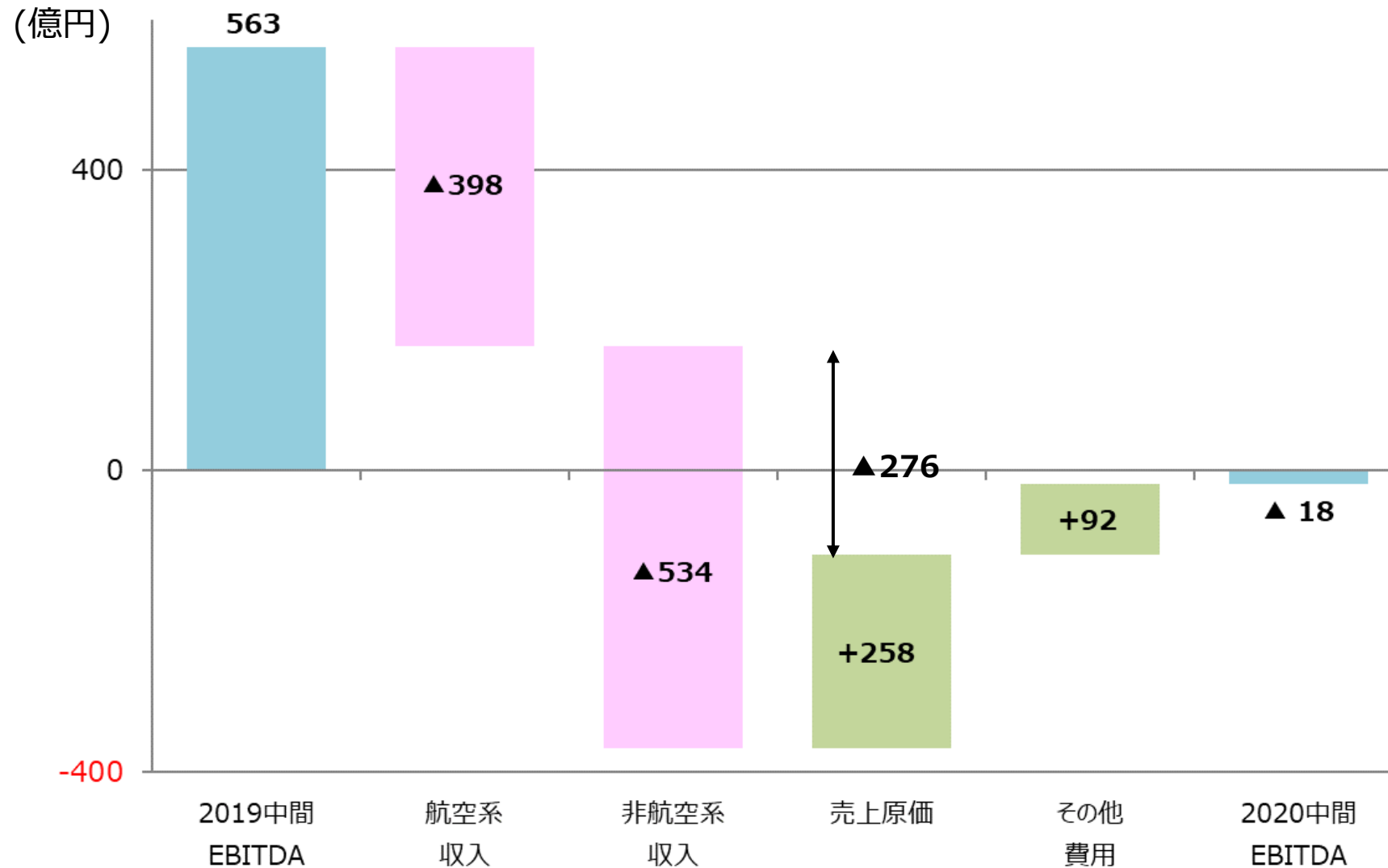
経営成績

【単位：億円】

	2019.4-2019.9	2020.4-2020.9	差額	%	うち 台風影響額
営業収益	1,198	266	(932)	-78%	
航空系	493	95	(398)	-81%	
非航空系	705	171	(534)	-76%	
営業費用（減価償却費除く）	(635)	(284)	351	-55%	
EBITDA	563	(18)	(581)	-	
減価償却費	(202)	(206)	(5)	+2%	
営業損益	362	(225)	(586)	-	
営業外損益	(54)	(36)	18	-	
経常損益	308	(260)	(568)	-	
特別損益	62	6	(56)	-91%	(45)
法人税等、非支配株主帰属損益	(115)	77	192	-	14
中間純損益*	255	(178)	(432)	-	(31)

EBITDA（前年比）

【単位：億円】



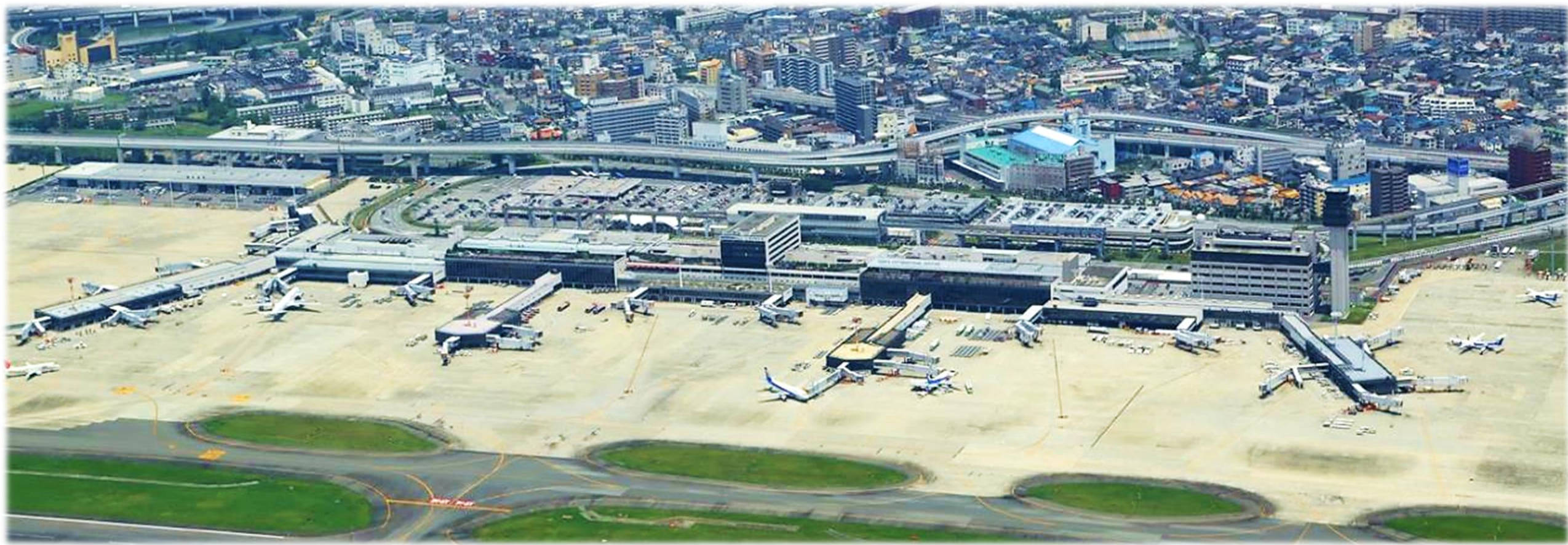
バランスシート

【単位：億円】

	2020.3.31現在	2020.9.30現在	増減
流動資産	1,690	1,208	(482)
うち 現金及び預金	1,280	923	(357)
固定資産	15,635	15,597	(39)
資産合計	17,325	16,804	(521)
流動負債	799	607	(192)
固定負債	15,431	15,280	(150)
負債合計	16,230	15,887	(342)
株主資本	1,087	909	(178)
その他の包括利益累計額	(6)	(9)	(2)
非支配株主持分	15	16	1
純資産合計	1,096	917	(179)
負債・純資産合計	17,325	16,804	(521)

公共施設等
運営権等

公共施設等
運営権に係る負債等



營業收益分析

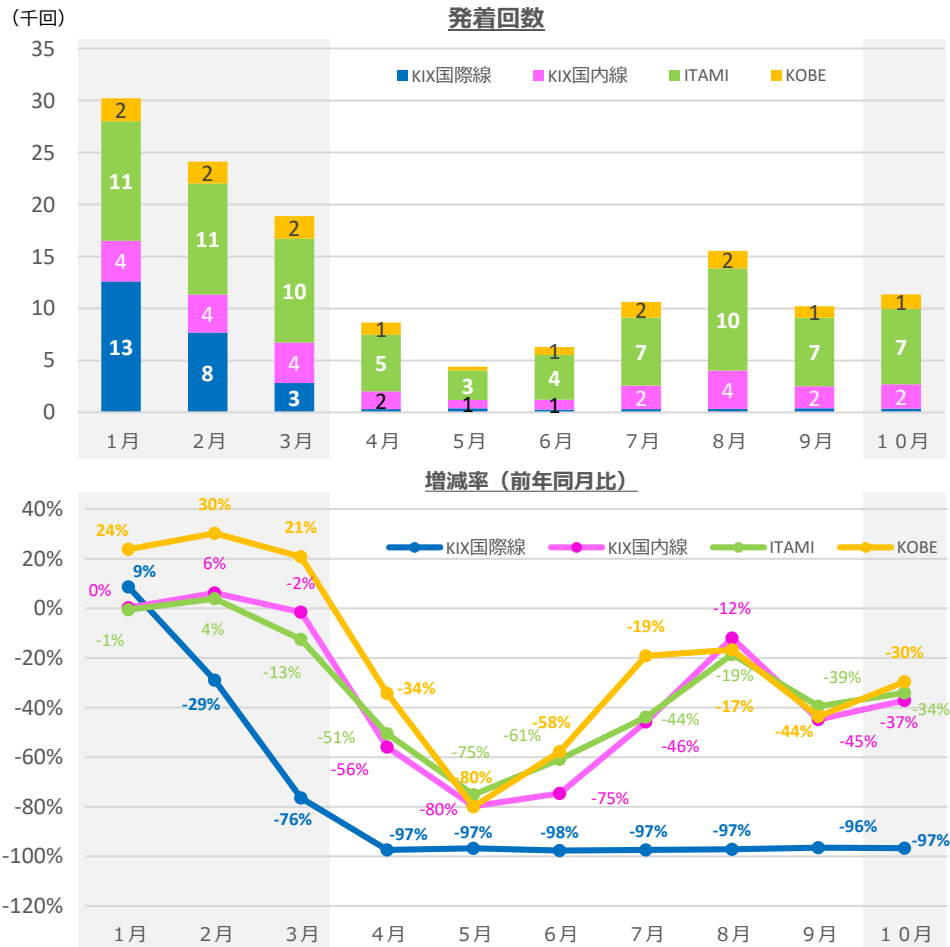
【航空系】新型コロナウイルスの影響により、発着回数・旅客数ともに前年を大きく下回った

- ➔ 新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け、3空港合計の発着回数は前年比60%減、旅客数は87%減
- ➔ 国際旅客便：各国及び日本政府の出入国制限の拡大にともない、減便・運休が相次いだ。旅客需要は上期を通じて、本国帰還者を中心に最低限の移動に留まった。
- ➔ 3空港国内旅客便：新型コロナウイルスの国内感染拡大と移動自粛の影響を大きく受け、3空港の発着回数・旅客数は前年を大きく下回った。緊急事態宣言下にあった5月を底に回復基調にあったが、7月下旬から8月上旬にかけての国内感染者数増加で回復が一時鈍化。が、9月の連休時期の復便もあり、その後旅客数は回復傾向に戻りつつある。

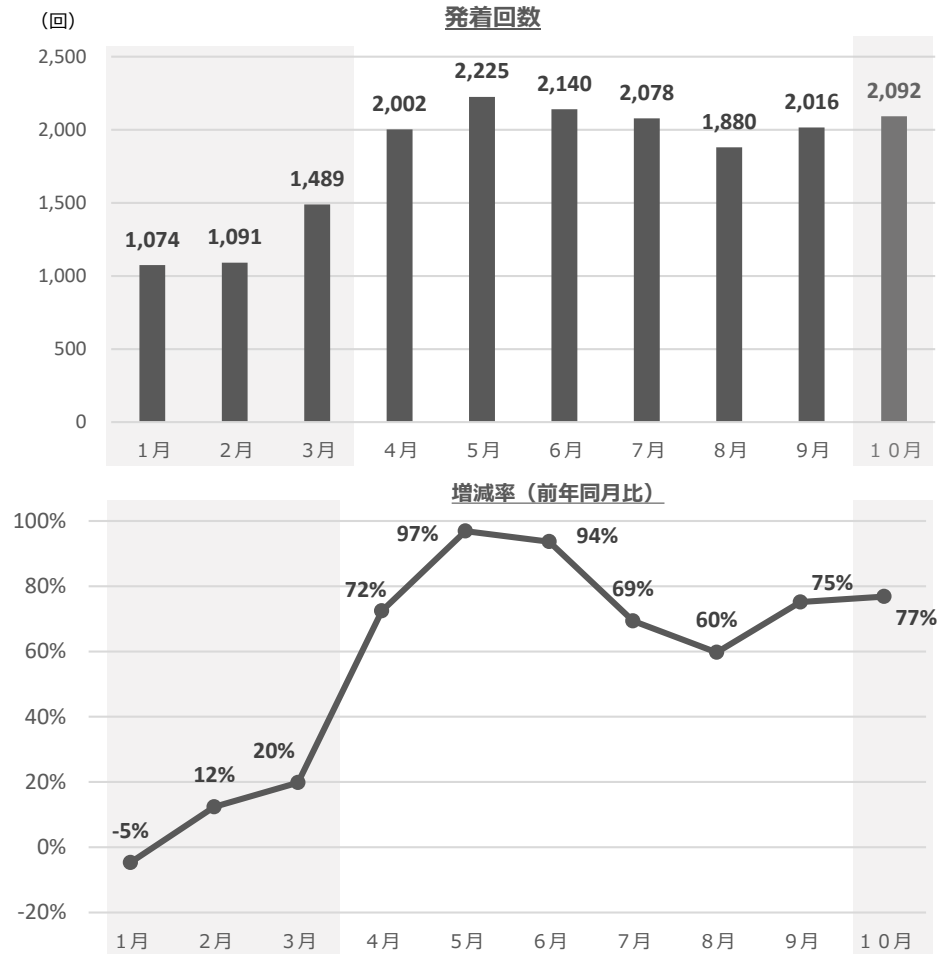
	2019年度 上期	2020年度 上期	増減	%
発着回数（万回）	19.1	7.6	(11.6)	-60%
関西国際空港	10.6	2.8	(7.8)	-74%
大阪国際空港	7.0	3.7	(3.3)	-47%
神戸空港	1.6	1.0	(0.5)	-34%
航空旅客数（万人）	2,644	350	(2,295)	-87%
関西国際空港	1,635	88	(1,547)	-95%
国際線	1,276	6	(1,270)	-99.5%
日本人旅客	398	2	(396)	-99.4%
外国人旅客	867	3	(864)	-99.6%
国内線	359	82	(277)	-77%
大阪国際空港	839	220	(620)	-74%
神戸空港	170	43	(128)	-75%

【航空系】関西3空港 発着回数

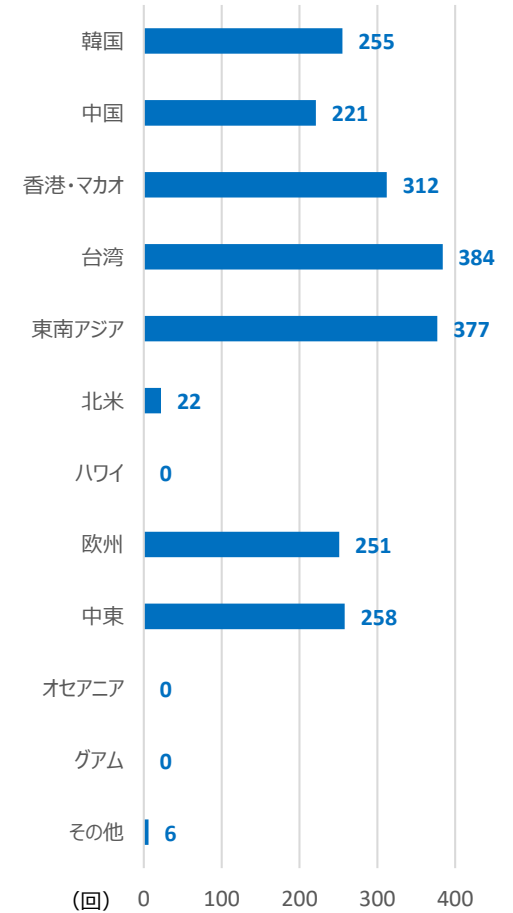
旅客便（2020年1月－10月）



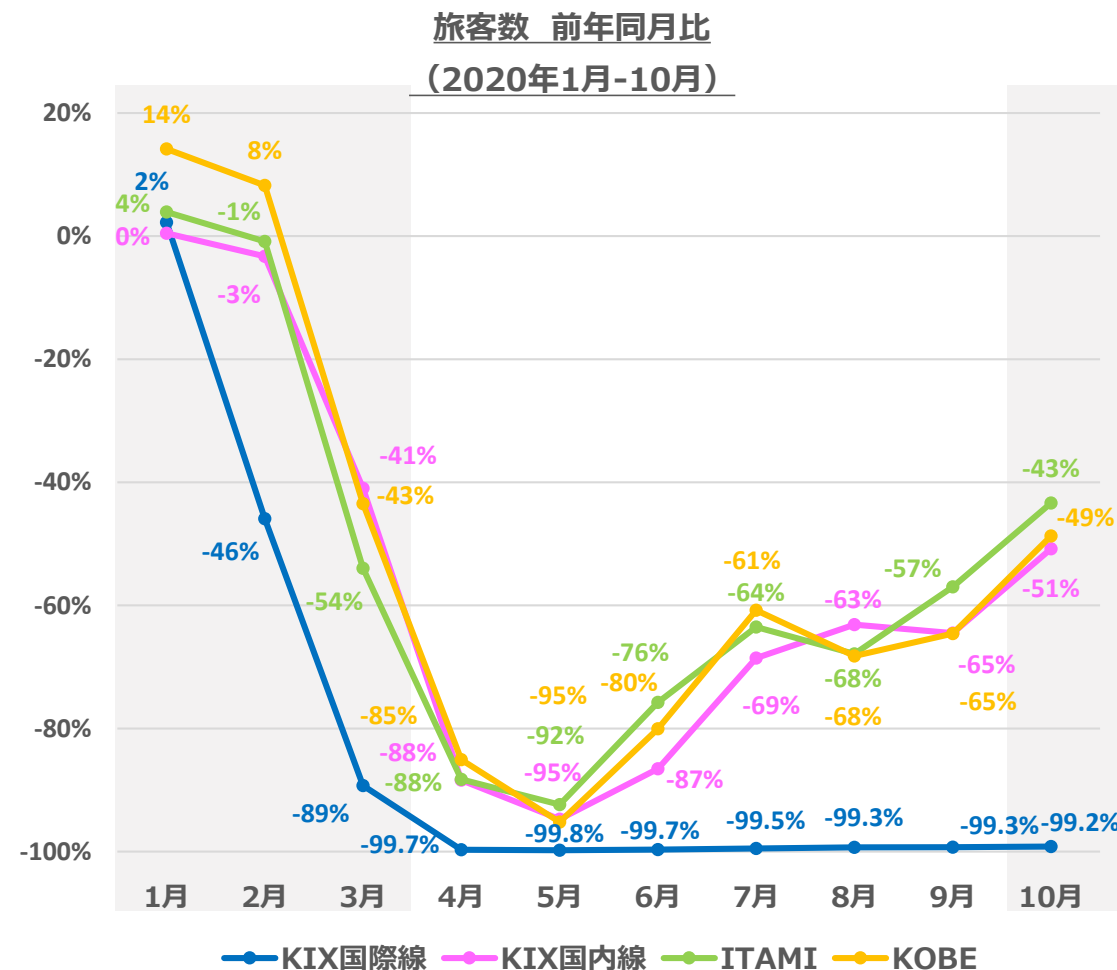
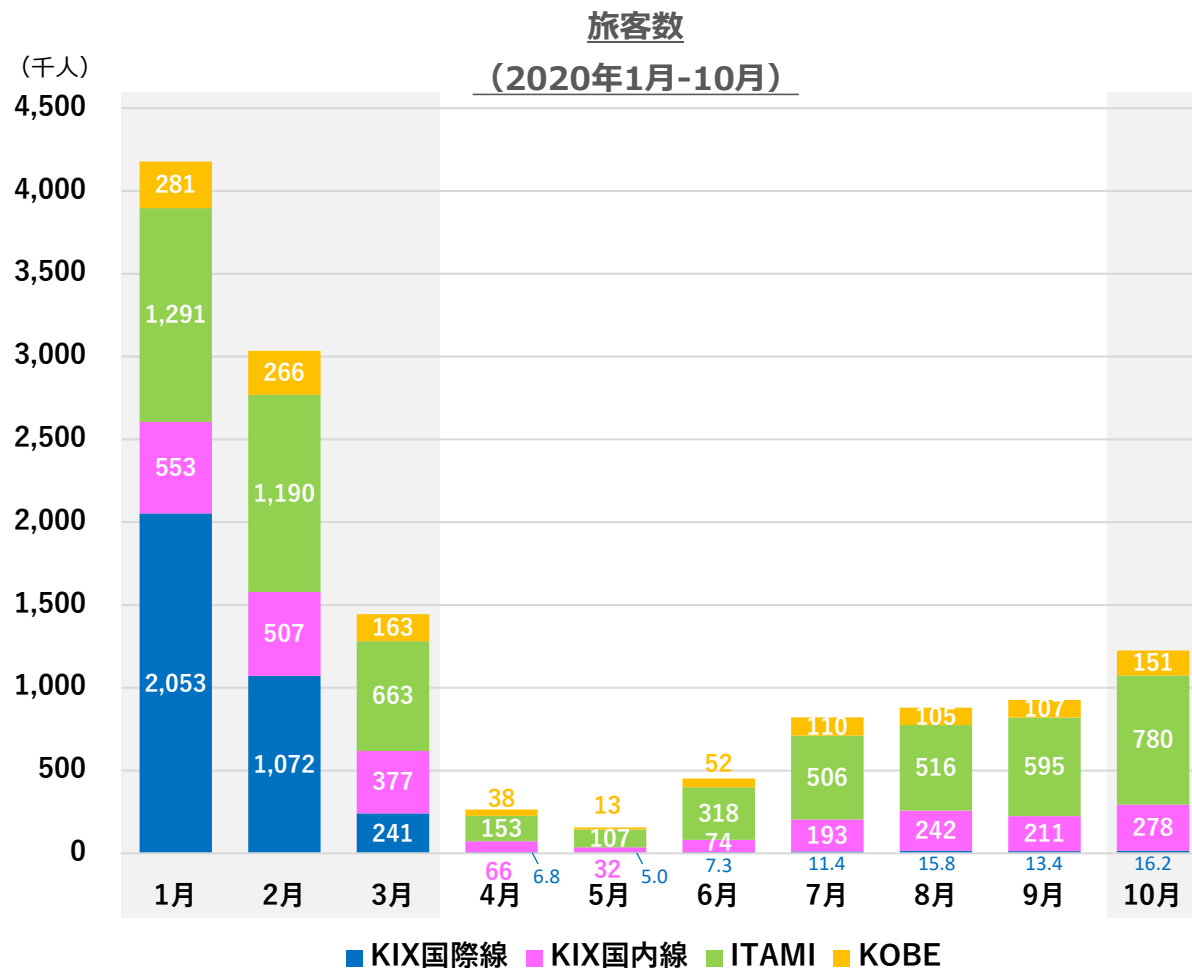
国際貨物便（2020年1月－10月）



国際旅客便 方面別発着回数
（2020年4月－9月 合計）

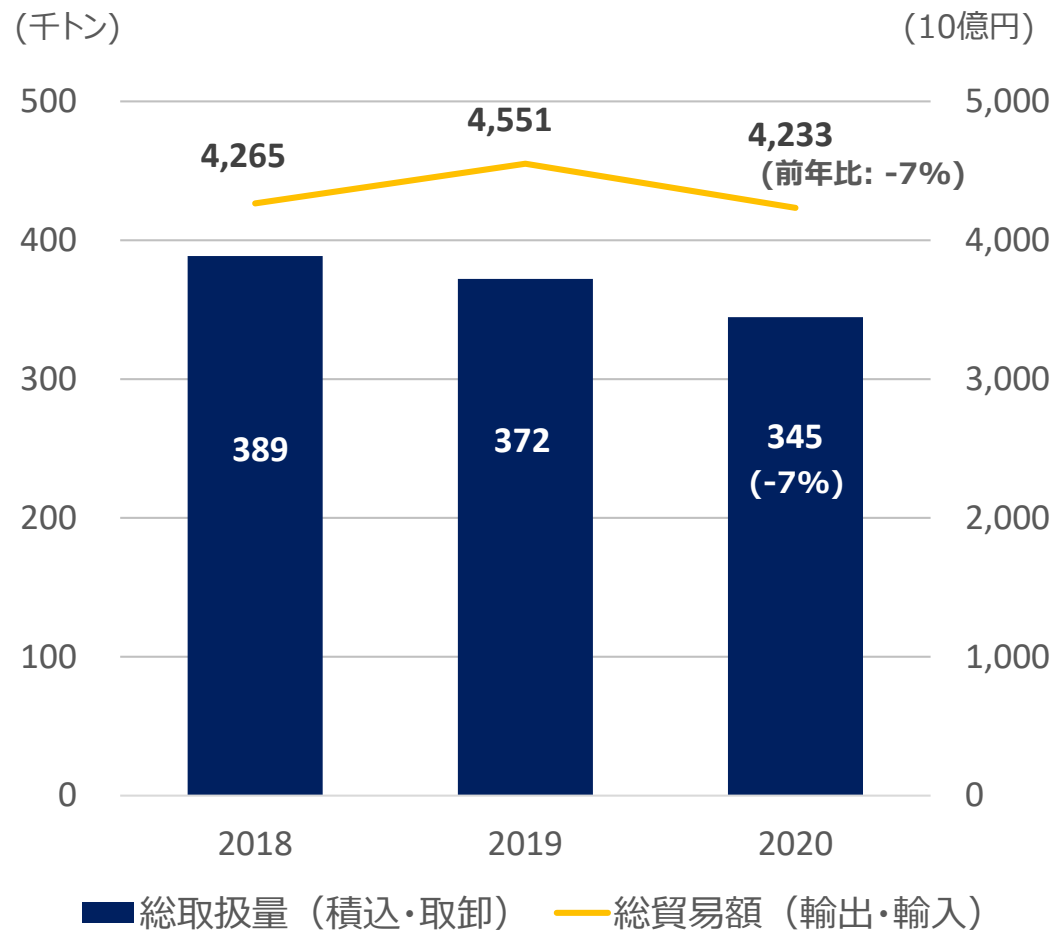


【航空系】関西3空港 旅客数



【国際貨物】 発着回数・貨物量・貿易額

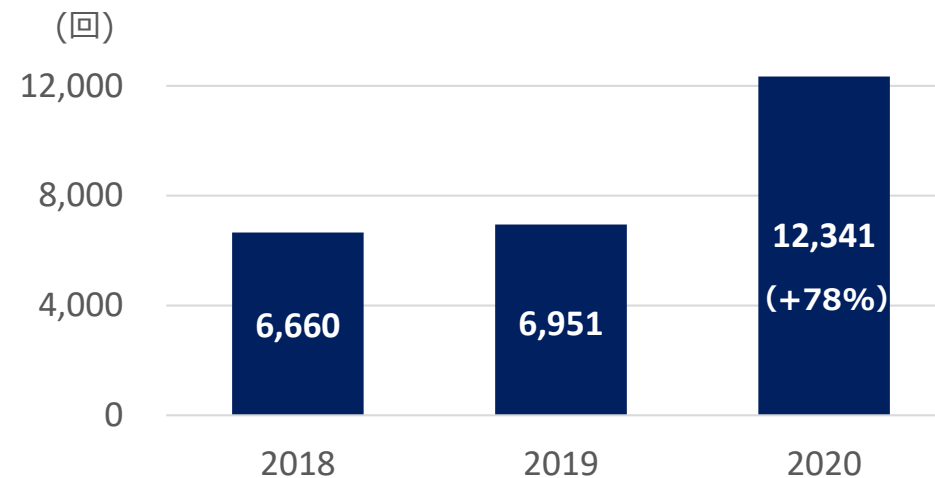
KIX/貨物量・貿易額（年度上期推移）



- ✈ 貨物量は減少しているが、旅客便の運休で旅客機ベリーの貨物輸送が急減、貨物輸送力を確保するため貨物便の発着回数が大幅に増加
- ✈ FedExの発着回数は大幅に増え、杭州圓通・順豊といった中国系エクスプレスも多く運航、ルフトハンザ・カーゴも新型機材を導入(20Wから)

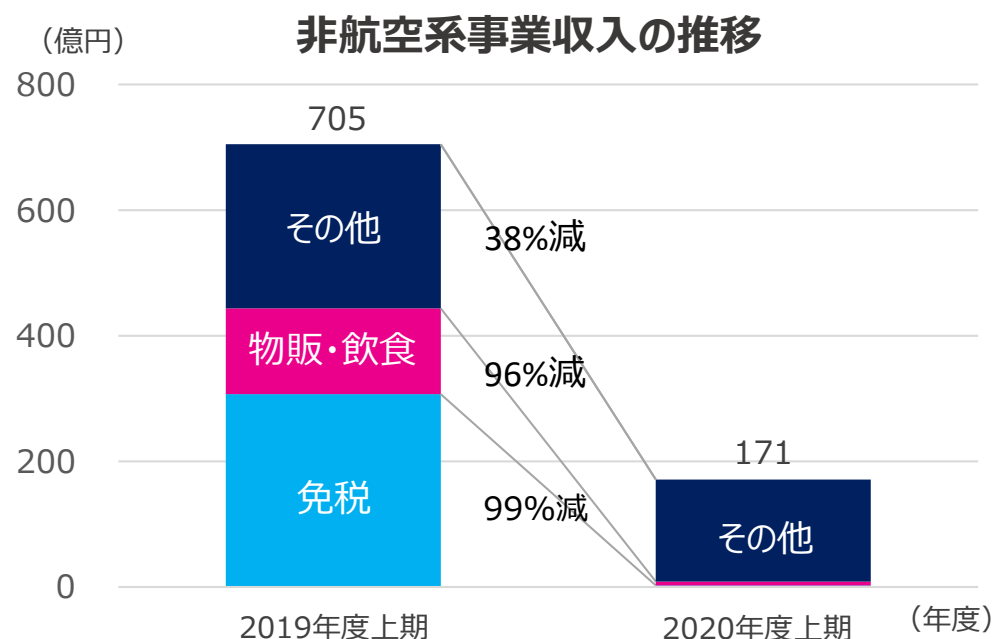


KIX/貨物便発着回数（年度上期推移）



【非航空系】 新型コロナウイルスの影響により上期収入は前年比大幅減

- ➔ 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、航空旅客数の大幅減少により上期の非航空系事業収入は前年比-534億円(-76%)と大幅に減少
- ➔ 国際線旅客便の一部運航再開、国内線の便数回復にともない旅客数は徐々に増加。月別の非航空系事業収入も増加傾向
- ➔ 新型コロナウイルス終息後の旅客数回復期に向けた収入拡大施策を検討中





2020年度上期の取り組み

2020年度上期の取り組み

3空港で新型コロナウイルス感染症対策

・旅客・従業員の感染防止対策

マスクや手袋の着用、透明シールドの設置等

・健康スクリーニング

空港をご利用いただくお客様に、サーモグラフィーによる体温測定を実施

・消毒・清掃

カウンター・保安検査場・エスカレーター等の消毒・清掃、消毒液の設置等

・ソーシャルディスタンス

保安検査場や搭乗待合スペース等においてソーシャルディスタンスの運用実施

・館内放送・ポスターによる呼びかけ



新型コロナウイルス感染防止対策への取り組みの一環として、3空港を利用する旅客へ向け、マスク着用を含めた感染症対策を促す『マスク着用キャンペーン』を6月19日（金）に実施しました。

公式キャラクター「そらやん」がLINEスタンプ初登場（8/5）

大阪国際空港のグランドオープンを記念し、関西エアポートグループ公式キャラクター「そらやん」を起用した初のオリジナルLINEスタンプを発売しました。



3空港で医療従事者への感謝を込めた「LIGHT IT BLUE」に参加（9/17）

新型コロナウイルスと闘う医療従事者への感謝を込めて、関西3空港をブルーにライトアップする「LIGHT IT BLUE キャンペーン」を2021年2月28日まで実施しています。「一日も早くコロナ禍が終息し、青空を自由に行き来できる日が戻りますように」という思いも込めており、キャンペーンを通じて感謝の意を伝えます。



3空港で2020「空の日」リレーメッセージ動画配信（9/20）

9月20日の「空の日」に合わせ、関西3空港が連携して2020「空の日」リレーメッセージ動画を配信しました。空港関係事業者様と連携し、航空への理解促進や関心喚起、新型コロナウイルス対策の訴求による不安感払拭などをメッセージにしました。



2020年度上期の取り組み

KIX 国際線出発口に「自動化ゲート」を設置（7/27）

当社が取り組んでいる「ファストトラベル」を一層促進するための取り組みで、自動化により、お客様ご自身で搭乗券をスキャンし、ゲートを通過して保安検査場に入っていただく形になりました。従来よりもスムーズな出発手続きを実現します。



ITAMI 駐車場・モノレール駅舎直結のアクセスデッキオープン（6/26）

お客様のアクセス向上のため、北立体駐車場とモノレール駅舎をつなぐアクセスデッキの供用を開始しました。駐車場とターミナルビル間を雨の日でも濡れることなくアクセスすることができ、バリアフリー設計のため、ストレスのない快適な移動が可能となります。



ITAMI 長距離バス待合室オープン（7/1）

空港発着の長距離バス全11路線へのご利用に便利な待合室を新設しました。無料Wi-Fi、自動販売機他、長距離バス時刻表・フライトインフォメーション・交通情報等を表示する案内サイネージも完備しています。



ITAMI レンタルバイク専門店オープン（8/1）

空港北ターミナルビル直結のレンタルバイク専門店「レンタル819大阪国際空港店」が出店しました。約50台の豊富なラインナップで、空港到着後、すぐにご利用・出発が可能です。ツーリング、ビジネス、ご帰省など多様なニーズに合わせてご利用いただけます。



ITAMI グランドオープン（8/5）

8月5日に約50年ぶりの大規模改修を進めてきた大阪国際空港がグランドオープンしました。保安検査後には、国内線で日本初導入となる「ウォークスルー型商業エリア」を展開しており、回復傾向にある国内線旅客に新たな体験を提供します。バラエティ豊かな店舗の新規出店により、航空客・非航空客ともにお楽しみいただけます。

